

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後クラブ ルンパルンバ安養寺		公表日		2026年 3月 18日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	1
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		職員の不足があるときには、タイミーを活用している	人材の育成強化に向けた職員研修	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		スケジュールを立て視覚化している	環境設定は固定化せず、変化を持たせいい方法へと日々職員間で意見を出し合い考慮していく	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		日頃から清掃を心がけ、児童とも協力しながら取り組んでいる	危険箇所の把握とその対応をBCPとして見直していく	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		2階の部屋を活用していることもある	体調が悪いなどの際にも対応できるようにしていく	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		6		日頃ミーティングで決めている。研修で学ぶ場を設けている	職員研修（OJT、OFFJT）にて確認をしていくことを目標とする
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		モニタリングを行い面談にて保護者へ伝え、職員にて書類を通して共有している	ルンパの強みでもありこのまま継続する
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		毎朝の打ち合わせで意見などを集めながら支援に臨んでいる	段階を経て取り組むこともあり保護者へは説明をしながら一緒に進めていく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		学校の先生、相談支援事業所職員さんが実際の支援現場を見学できる場を設けている	今後も継続して受け入れ態勢を取りながら意見を様々な視点でいただき支援の向上に努めていきたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		年間スケジュールを作成し、法定研修・支援スキル研修、社会人の考え方の研修を行っている	現場にてOJTも充実しながら資質向上に努める
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		毎年ホームページ「ルンパルンバの特徴」ページに公表している	保護者面談の際にも公表場所案内、プリントして配布などを要望確認する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6		評価の際に職員より児童のアセスメントを行う。面談内容などを反映しながら職員と共有して作成している	継続して実りある支援のためにチームで活動を進めていく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6		「できるを伸ばし、苦手を練習する」機会を損なわないようにしている	保護者との計画内容の確認と日頃の支援報告等が要望。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6		個別支援計画の説明を保護者だけでなく職員にも説明をしかつ支援記録にも反映している。	継続していく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6		発達検査表などを持参していただき、得意不得意を精査している	支援方法へ落とし込む
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		6		それぞれの項目について具体的かつ実際の支援をする事細かな内容について記載している。	移行支援については学ぶ機会を多く設けていけるようこのまま継続する
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		6		行事では職員が立案し、チームで動いている	職員役割、業務の差がでないようにしていく

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		PDCAサイクルを活用して進めている	毎日の活動の中身を連絡帳などで伝えているが詳細と写真についても積極的にお知らせできればと思う
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		児童発達管理責任者中心のもとで作成・支援を行っている	見直し期間を短く設定するなどし支援の充実化を図る
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		実施できている	意見が通りやすくできるようにまとめていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援記録としてデータ間で共有し打ち合わせを毎日行っている	共有できるツールを今後も活用していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録、中間評価記録、年間評価記録として記述し保存している	後続条件をより細かくだれが見ても伝わりやすくをモットーに心がける
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		その児童に合わせて評価時期を早めていることもある	継続していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		5領域として総合療育を行っている	保護者にもしっかりと説明をしていく
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6		子どもたちからの要望にしっかりと受け入れ態勢を整えている	子どもが主体となる活動場面を今後も増やしていけるようにしていく
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		事業所の代表として管理者が参加している	支援時間の考慮などが必要なきもある
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		宮城野区役所など協議会からアドバイスをもらう機会を作っている	講師として招くことも検討していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		保護者を経由しながら取り組み、必要に応じて学校への直接問い合わせることを行っている。	学校からの連絡ツールが事業所にも共有できるように体制をつくる
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		申し込み時期にもよるが園を見学してアセスメントを実施。	積極的に連携を図っていきたい
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		相談支援事業所さんへ個別支援計画、支援内容などについて共有している	長期休みを利用し福祉サービス事業所とも今後も幅広く連携を図っていきたい
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		協議会を通じて接点を設けている	療育手法についてリタリコ研修サイトなどもあり時間を見て職員研修でみんなで学ぶ
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	児童クラブと併用して通所している人はいる	子ども同士では関わりある場の提供は難しいが、児童館さんとうまく連携を図ればと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		参加している	時間との調整で難しい場合もある
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		面談を通して話をしている	保護者からの情報がいただけない場合もあるが、送迎時や面談時などでしっかりと共有していく
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		面談を設けている	個々での面談は継続していきたいが全体での参加できる研修の機会はや検討できればと思う。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		通所開始にあたり契約時に保護者へ丁寧に説明を行っている	継続する	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		本人の思いと保護者の意向を聞き出し計画に反映している	本人出席もしている家庭もある	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		同意を得ている（署名をいただいている）	支援の現場見学の場を積極的に設けていく	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		引き渡し時やLINE連絡帳を通して共有している	小さなことでも話の場を設けていけるように日程を調整していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	希望者があまり少ない	ご家庭での都合などに合わせて会を開くことは希望者を募りつつ検討できればと思う
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情相談受付窓口を設置している	些細なことでも素早く気づける体制でつくりを心がける
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		ルンバ通信を毎月発行している 活動ブログとしてHPにアップしている	今後も継続
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時書類で確認をしている	今後も継続
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		配慮している	継続
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	以前は実施していたが感染症の観点から難しいことが多い	地域の会長さんと連絡を取りながら検討ができればと思う
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルを作成し、研修・訓練を定期的実施している	HPにマニュアルを掲載している
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		マニュアルを作成し、研修・訓練を定期的実施している	研修実施の継続
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に必ず確認している	アセスメントシートを共有しているが、てんかん発作児童によっては個々の対応マニュアルは必要だ。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に必ず確認している	継続
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		戸外、外出時には名簿、チェックシートを活用して安全に留意して支援を実施している	継続
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		引き渡しカードとして作成している	情報更新に伴い見直しを定期的実施を図っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例を職員で共有し再発防止に取り組んでいる	支援の質向上に向けて継続
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修内容に組み込んでいる	必要に応じて外部研修も検討する
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に面談時に伝えている	面談時に確認していく	